

学力のつく夏休みの過ごし方とは

－「英検」、「新聞」、「読書」に挑戦しよう－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：夏休みには、何に挑戦したらよいですか。

A：(林明夫：以下省略。)塾生の皆様の今後の勉強と、「人生の成功」のために「英検」、「新聞」、「読書」に挑戦することをお勧めします。

Q：なぜ、「英検」と「新聞」、「読書」なのですか。

A：(1)国際化は今後もっともっと進みますので、世界の共通語としての「英語」はキッチリ身に付けておく必要があります。自分はどのような生き方をしなければならないか、なぜ勉強しなければならないかを考えるとき、最も参考になるのが、世界や日本、地域の動きを毎日報道してくれる「新聞」です。思慮深く、また、いつも自分のことをふり返りながら生きるためには、幅広い、また、質の高い「読書」が大切だからです。

(2)どのような試験を受けるにも、短い時間の中に大量の文章を正確に、また、批判的に読んだ上で、自分の頭で正解を出し続けなければなりませんので、この三つは入学試験対策のためにも必要不可欠です。

(3)現在、開倫塾に在塾している塾生の皆様は、ほぼ全員が高校を卒業した後、大学、短期大学、専門学校に進学すると推測されます。そのような学校を「高等教育機関」と言います。「高等教育機関」で勉強する上で、「英語」と「新聞」、「読書」は最も重要です。また、「高等教育機関」を卒業して社会に出て活動するときには、「高い仕事能力(スキル)」が求められます。「英語」と「新聞」、「読書」を抜きにして、「高い仕事能力(スキル)」は考えられません。

(4)このような理由で、開倫塾では「英検を毎年、確実に取っていこう」、「小学生は20分、中学生は40分、高校生は1時間以上、新聞を一面から毎日読んで考えよう」「質の高い読書を積み重ね、気に入ったことばに出会ったら『書き抜き読書ノート』に書き写そう」を教育の方針にしています。

夏休みは、この三つの課題に最も取り組みやすい時期ですので、今年も大キャンペーンを展開します。

Q：「英検」を受験するのは、開倫塾生の義務ですか。

A：はい、義務事項です。開倫塾の塾生であれば、毎年、実用英語検定に挑戦し、英検の勉強を通して英語のコミュニケーション能力を確実に身に付けてください。1つの級を勉強すると約1000の英語の語句を学ぶことができます。英検はマークシートで解答しますが、一度「うんなるほど」と十分理解した内容を「音読練習」「書き取り練習」「問題練習」を徹底的に繰り返せば、勉強したことがすべて身に付きます。英語を「読み」「書き」「聴き」「話す」能力が確実に身に付き、学校の勉強や高校入試、大学入試にも絶大な威力を発揮します。

全校舎で一斉に、7月初旬から10月の試験前日まで100日間の「英検コース」がスタートしますので、全員履修してくださいね。

Q：「新聞」はどう読めばよいのですか。

A：家族の方によく頼んで、不要になった昨日の新聞を、毎日プレゼントしてもらってください。（兄弟姉妹のいる方は、皆で仲良く読んでくださいね。）新聞は、一面からなめるように読むことが大事です。読んでいて興味のある記事には印を付け、あとで切り抜き、日付を書き、ノートに貼る。テーマを決めて新聞を読み、切り抜きノートを作るのも面白い読み方です。

新聞は何のために読むのか。世の中で起こることを、自分の頭を使い批判的に考える能力を養うためです。「批判的思考能力」が、「自立(自分の力で立つ)」、さらには「自律的に活動する能力(自分自身をコントロールしながら活動する力)」の基礎となります。

Q：「読書」はどのようにすればよいのですか。

A：どんな本でもただ読めばよいというわけではありません。先生がすすめてくれた本や、教科書や新聞で紹介された本、図書館にある本をお勧めします。本は、速く読まないこと。ゆっくり時間をかけ、よく考えながら読むこと。精読、熟読することです。時々、声を出して読むこと、「音読」すること。気に入ったことばに出会ったら「書き抜き読書ノート」に書き写すこと。

Q：本は何回読めばよいのですか。

A：時間をおいて、同じ本を5～6回ゆっくり読むことをお勧めします。

この三つを、7月に入ったらどんどんやってみましょう。きっと頭が冴えわたり、2学期が迎えられるですよ。